特集>>>　700号記念

“建設の施工企画”誌700号に寄せて期待するもの

国土交通省国土交通大学校　佐　野　正　道

日本建設機械化協会の機関誌“建設の施工企画”が，1949年7月の創刊以来，本年6月発行で第700号を迎えることになった由，心からお慶び申し上げます。

これも，定期刊行をめざして，ひとときも休むことなく地道にご尽力されてきた協会やご支援，ご協力を惜しまなかった関係の皆様方の積み重ねの成果であり，深く敬意を表するものであります。

私が，専ら，本誌に関わりをもつようになりましたのは，2003年4月から1年3ヶ月の間，編集委員長をお引き受けして以降であります。当時，抱いておりました思いのいくつかは，生意気にも同年11月号の巻頭言に吐露させていただいておりますので，読者の皆様のなかには，ひょっとすればお目にとまったかもしれません。そのなかで一番心に残っておりますことは，玉光元会長をはじめ関係する皆様の特段のご理解を得て，機関誌名を長年にわたり親しまれてきた“建設の機械化”から“建設の施工企画”へと変更したことであります。いまにして思えば，“建設の機械化”にこれまで邁進してこられた諸先輩の種々のご意見，ご忠告（例えば，建設の施工企画という言葉は，市民権を得たこなれた言葉となっていない等）をふまえれば，協会の看板である機関誌名を“建設の施工企画”へ変更することは，時期尚早かと思われ，一抹の不安のよぎったことも事実でありますが，思い切ってあの時に変更してよかったのではないでしょうか。名は体を表すといわれますように，機関誌名は，貴協会の目指す方向，使命等をズバッと表現するものが好ましいと思われます。機関誌名の変更からは，社会の変化に即応しながら，更に時代の先取りをするような協会活動への前向きの姿勢を感じとることができ，思いのほか，読者等にも好感を持って受けいれられたのではないかと自分勝手に思量しています。

ところで，近年，公共事業の急激な減少や無駄遣い批判，公共調達における談合決別への社会的要請や，低価格等による品質低下の懸念等，公共事業をめぐるさまざまな問題が噴出しています。このため，公共事業のあり方や進め方を見直し，透明で効率的な建設生産システムの構築，さらにはこれらを推進するための技術力のある有能な人材の育成確保等，発注者，受注者の次元の問題はもちろんのこと，もっと大きな視点から，いわば国土レベルの経済や産業構造までが問われているのは，ご承知のとおりであります。こうした時代の曲がり角にさしかかった今日，かつて貴協会が，建設の機械化を通じて，安全や環境にも配慮しつつ施工の合理化，コストの縮減等を実現し，国土造りの計画的な推進に多大の貢献をされてきましたように，これからは，建設の施工企画というスキルをもっともっと拡充発展して，物品調達とは性格を異にする公共調達の改革や，品質，安全，生産性等の課題を解決した建設生産システムの構築等の実現に，重要な役割を果たしていくことが求められているように思われてなりません。建設の施工企画は，建設の機械化に比して，ITやマネジメント等を含む，より総合的なスキルであり，機械施工技術の開発，活用に加えて，建設生産システムを遅滞なく有機的に機動せしめる効用等が期待されています。直営時代は，発注者自らが，設計，施工をはじめとする生産システムのすべての段階に関与し，海外技術の導入や新技術の開発等を行い，現場に適用を試みることで普及を図ってまいりましたが，請負の時代になると，特に近年は，発注者は専ら積算と監督検査等に特化するようになり，設計，施工やそのマネジメントは，大部分は，受注者の責任で取りしきることが多いように思われます。そこでは，発注者の責任を明確に自覚しなくても，生産システムは，まがりなりにも稼働することから，発注者にとって必須といわれるような技術の継承，蓄積，生産システム全体を見通せるマネジメント能力等が低下する傾向にあります。このため，たとえば，トンネル工事では掘進すれば地質が悪くなる，あるいは，ダム工事では堤体の基礎を掘削すれば地質が良くなるケースに遭遇して，工事費を変更せざるをえなくなる場合を想定してみますと，発注者は，技術的な面から評価，検討するだけの技倆に自信のないことから，専ら安全の優先等を主張する請負者の意見に十分異議を唱えることはで

きず，したがって，必ずしも発注者自らの適切な現場判断をくだすことには至らない場合もあるのではないかと危惧されます。限られた予算内で少しでも品質の良いものをできるかぎり早く建設し，適切な維持管理により少しでも長持ちのする社会基盤施設を整備していくには，設計上の改善はもちろんのこと，施工というレベルでの技術力やマネジメント上の地味ではありますが，たゆまぬ改善努力が大きな意味をもってまいります。建設の施工企画は，透明性の高い生産システムを円滑に運用し，地域性をふまえた技術競争や総合評価等の望ましい公共調達への転換になくてはならないスキルの一つであり，発注者の技術力やマネジメント力の向上と相まって，存分に発揮されんことを期待してやみません。

公共工事では，発注者の現場離れが進み，技術力がますます低下して重要かつ基本的な技術が継承されなくなってしまいました。公共工事の削減の続く今がチャンスです。これまでは，忙しさのあまり発注することがゴールであるかのごとく思い違いをすることもありましたが，いまこそ発注者責任を完遂するためにも，建設の施工企画という有用なスキルを活用してみてはいかがでしょうか。そうすれば，公共調達の改善や新たな生産システムの構築にも，上滑りすることなく，本質にくいこんで取り組むことができると思います。その際，大切なことは，とかくマニアックな各論にのめり込んで，いわばタコ壺にはいりこんで全貌を見失わないように留意しなければなりません。たえず，ゴールを見据えて，大局観を有しながら，自ら思索するくせをつけることが肝要ではないかと思います。

戦前を代表する稀有な土木技術者の一人であり，優れた教育者でもあった宮本武之輔の随筆「技術者の道」にこんな一節があります。「私の信ずるところを以てすれば，国家の重責を託するに足る偉大なる人材は必ずしも手腕技量の優れたるを条件としない。要はその信念によって定まる。」「私は学生に向かって講義の中の細かい数字などは，忘れても，決して大綱を掴むことを忘れないようにということを口癖のように注意しているが，すべて信念は自覚から生まれ，自覚は思索から養われる。思索のない人生は一種の牢獄である。」この言葉をかみしめつつ，技術者の備えるべき確固たる信念をもって，この難局を乗り切ろうではありませんか。

おわりに，“建設の施工企画”は，今後とも引き続き 800 号，900 号と継続して刊行され，その目指すところの企図にふさわしい情報発信を通じて，日本建設機械化協会を明日に向かって牽引していってほしいと，心底から祈念しつつ，700 号に寄せた期待の言葉といたします。

平成 20 年度版　建設機械等損料表

■内　　容
—国土交通省制定「建設機械等損料算定表」に基づいて編集
—各機種の燃料消費量を掲載
—わかりやすい損料積算例や損料表の構成を解説
—機械経費・機械損料に関係する通達類を掲載
—各種建設機械の構造・特徴を図・写真で掲載
—日本建設機械化協会発行「日本建設機械要覧」参照頁を掲載

■ B5 判　約 600 ページ
■一般価格
7,700 円（本体 7,334 円）
■会員価格（官公庁・学校関係含）
6,600 円（本体 6,286 円）
■送料　沖縄県以外　600 円
沖縄県　450 円（但し県内に限る）
（複数お申込みの場合の送料は別途考慮）

社団法人　日本建設機械化協会
〒 105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8（機械振興会館）
Tel. 03 (3433) 1501　Fax. 03 (3432) 0289　http://www.jcmanet.or.jp